中国の大学における就職支援・キャリア教育のとらえ方について
―大連外国語大学の学生意識調査を中心に―

朴　慧淑
九門　大士
于　飛

A Survey of the Career Planning and Guidance in College Education in China
―Based on Students' Attitudes of Dalian University of Foreign Languages―

Huishu PIAO
Takashi KUMON
Fei YU

はしがき

本論文は、大連外国語大学を対象に中国の大学におけるキャリア教育の問題点をとりあげ、今後の改善方法や対策について検討する。本論文の構成は以下の通りである。

第１節では、中国政府（教育部）が大学に求めるキャリア教育の内容と関連カリキュラムの設置やキャリアカウンセラーなどに関する政策を挙げるとともに、企業の新入社員の就職・離職の現状などを取り上げ、大学段階でのキャリア教育の必要性を述べている。

第２節では、キャリアセンターとイノベーションセンターが主体となって行われる大連外国語大学のキャリア教育の現状と具体的なキャリア支援内容を分析し、その問題点や改善点を明らかにしている。

第３節では、こうしたキャリア教育を実際受けている在学生を対象に意識調査を行い、在学生の観点からキャリア教育に不足している点、キャリア支援の必要性、今後の対策について論じている。

第４節では、以上の文献調査とアンケート調査結果を基に、今後の大学における就職支援やキャリア教育の方向性について触れ、今後の研究課題について述べている。

第１節　問題関心

日本でキャリア教育が一般に注目されるようになったのは、1999年の中央教育審議会による「接続答申」からだといわれている。初等・中等教育と高等教育との接続の改善について取り上げられ、広く各教育段階の教育課程におけるキャリア教育の重要性が認識されるようになったのである。

では、中国ではどうだろうか。1998年に中国教育部により発布された『二十一世に向けた職業教育[1]改革の原則に関する意見』では、「社会主義現代化建設に見合う総合職業能力と技術を備え、直接生産・サービス・技術と管理の現場ラインで働ける応用型人材を育成すべきである（中国語原文：职业教育要培养同二十一世纪我国社会主义现代化建设要求相适应的、具备综合职业能力和全面素质的、直接在生产、服务、技术和管理第一线工作的应用型人才）」との要求が出されている[2]。

また、その後2004年の同部による『中小教師教育技術能力基準（試行）に関するお知らせ』で、初めて「キャリア」という言葉がみられる。「教

---

[1] 中国では「キャリア教育」に関して、「職業教育」や「生涯プラン」などと定義されることが多い。

[2] 中国教育部公式ウェブサイト参照。

師プロフェショナル化」（Teacher Professionalization）についての述語解釈には、「教師がその生涯にわたり、専門的な訓練と終身学習（キャリア教育）を通して、だんだん教育関連の専門知識や技術を教育実践活動の中で身につけ、一人前の専門教育従事者になることである（中国語原文：教师专业化是指教师在整个职业生涯中、通过专门训练和终身学习、逐步习得教育专业的知识与技能并在教育专业实践中不断提高自身的从教素质、从而成为一名合格的专业教育工作者的过程[3]）」と指摘されている。それまでは、就職指導や職業教育と呼ばれたのが、経済・産業の多様化に伴い就職形態が様々な分野に及ぶようになったため、その表現にも変化が生じたのではないかと考えられる。

2014年国務院による『より速く現代化職業教育を発展させることに関する決定』の中の国の要望に応え、2015年７月、教育部では『職業教育改革を更に進化し、全面的に人材育成品質を高めることに関する若干意見』を発布した。そこには、「人材育成の多様化・システム化に向けた教育課程の連続性・人材育成におけるイノベーション・中等教育と高等教育の接続・産業と教育の融合・大学と企業の連携・グローバルな人材育成方法」などが取り上げられている。これまでは、技術専門学校において専門的な職業人材を育成してきたが、国の産業変化や猛スピードで発展しつつある情報化時代のニーズに適合するため、高等学校・大学にも専門的な人材育成が求められてきた。

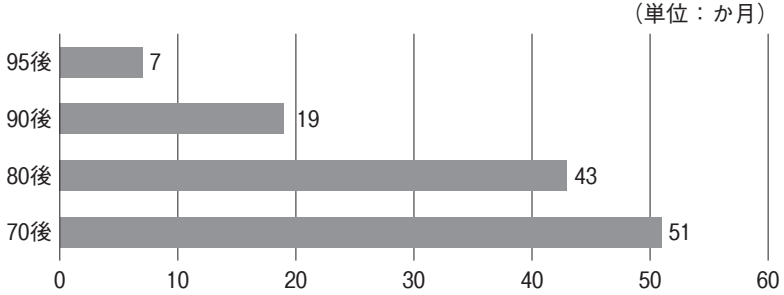
こうした国の政策に伴い、大学側も科目設定やキャリア教育関連の取り組みに注目するようになった。ただし、キャリアというのは、「ある人の生涯にわたる期間における、仕事関連の諸経験や諸活動と結びついた態度や行動における個人的に知覚された連続である」とHall（1976）が定義づけしたように、学生の勤労観や職業観というものは、短期間で決められた科目や活動を通じて容易に身につけられるものではない。４年間にわたる

[3] 中国教育部公式ウェブサイト参照。

大学教育全体を通じてキャリア開発を行うことは確かに必要であるが、時代の流れに沿った人材育成方法の検討が必要になる。1978年より全面的に実施されてきた国の「一人っ子政策」のもとに、特別な家庭教育を受けてきた「80後[4]」「90後」「00後」が国家経済を支える人材となりつつあることから、現時点の大学教育でもこうした世代の具体的な育成方法が問われている。

次の表１は世界最大のSNSであるLinkedInが、中国人ユーザー15万人に公開した情報を分析したものである。同SNSでは、5.46億人を超える会員が仕事やキャリアに関する情報を公開・取得している。

表１　初めて就いた仕事の在職期間数



（出典）　世界最大級のビジネス特化型SNS-LinkedIn資料に基づいて筆者作成

各年代に生まれた人が大学を卒業して初めて就いた仕事に携わった期間を示しているが、90年代に生まれた、現在30歳になったばかりか、或いは30歳未満の卒業生の平均就職期間は７か月～19か月にすぎない。つまり、卒業して初めて入った会社を２年未満、さらには半年強ですぐ辞めてしまったということである。自分の趣味や価値観などに不適合だと判断した時点ですぐ諦めたか、最初から大学で学んだ専門知識と業務内容がミスマッチだったと考えられる。しかし、こうした就職意識なども含め、大学段階である程度の教育や指導がしっかりと実施できたならば、こうした状

[4] 1980年代に生まれた子供を指す。以下同様。

況を改善できる可能性があるのではないかと考えられる。

第２節　大連外国語大学における就職支援の現状と課題

１．就職支援センター

１）国の政策規定

中国高等教育学生情報・就職支援センター（China Higher Education Student Information and Career Center略称：CHESICC）（以下センターと略する）は、中国教育部直属の政府機関であり、高等教育機関の学生募集・学籍学歴管理・卒業生就職に関する情報の問合せと指導を行う専門的な機関である。1998年より、『全国高等教育卒業生就職支援センター』に更新され、全国大学生を対象に様々な就職関連のサービスを提供する政府職能部門である。なお、大学内に設けてある就職支援センターの役割は、以下の３つに分かれている。

まず、センターは直属の上級部門が大学で行われている就職関連活動に関して把握するための主な手段である。毎年、大学では上級部門の指示に従い、当該大学にふさわしい就職支援対策を制定し、人事局などからの審査を受けることになっている。

次に、センターは大学と企業との架け橋となり、窓口の役割を果たしている。毎年大学で主催するジョブフェアに出展する企業の資格審査などを行い、学生のためにより多くの就職機会を提供している。

最後に、センターは在学生が就職情報を入手する主な窓口になっている。センターでは関連サイトで企業の募集情報を載せ、学生に正しい情報を迅速に伝える役割を果たしている。

２）大連外国語大学におけるセンターの役割

センターは大連外国語大学では『就業指導処』という名称で設けられ、卒業生の就職を支援する部門として活躍している。その役割は以下の通りである。

①　毎年11月に大型就職フェアを開催し、多くの企業と卒業生に場所と

機会を提供する。また、３月と10月には、最も在学生が多いソフトウェア学部・日本語学部・英語学部の新卒生のために、企業と連携しインターンシップ説明会を開き、各企業に卒業生の専攻と見合うインターンシップを設け、学生に実習機会を提供する。

② インターネットを利用した就職情報や業務内容・企業紹介のコンテンツを配布し、国の政策要望に応え、できれば遼寧省省内の企業に就職するよう宣伝する。つまり、地域経済のために人材を育成するよう、地方大学が担う責任でもある。しかし、ここで問題になるのは、宣伝するセンターの職員や各学部の学生課の職員が、どれほど卒業生の考え方ややりたいことが分かっているのかである。以下のアンケートにも明らかなように、センターを利用したことのある学生がごく稀なのは、非常に残念なことである。

③ 企業で活躍しているOBなどを招待して講座を開催したり、オープンオンライン授業などを通して、就業経験を教えてもらう活動を実施している。しかし、実際は直接職場体験できるインターンシップや企業研修のほうが、最終的な結果からみればより効果的だと思われる。

④ 本大学は外国語学習が主であるため、毎年外交部や中共中央対外連絡部[5]など国や国際レベルの国家機関からも募集機会があるが、それを希望する卒業生には特別なマンツーマン指導を行い、最も優秀なエリート育成に力を入れている。

⑤ ソフトウェア学院など一学年の卒業生がほぼ1,000人近くおり、卒業論文を指導する教師の数が限られている場合は、企業でのインターンシップ生を対象に、企業内指導教員と校内指導教員という「二重指導教員制度」を採り入れ、学生の就職に支障のないよう、協力している。

以上の役割から見れば、支援範囲も広く内容も様々であるが、それがどれほど卒業生の就職に積極的な影響を与え、またサポートできているのか

[5] International Department, Central Committee of CPC

は検討の余地がある。この点に関しては、今回のアンケートを通して改めて確認し、その問題点の解決に取り組んでいくつもりである。また、就職を目前とする卒業生本人も、実際は自分が何をやりたいのか、何ができるのか、という基本的な自己分析さえできていない可能性がある（この点においては、筆者の１人である朴がソフトウェア学院の６クラス、合計200名にビジネス日本語を教える際に質問した内容だが、明確に答えられる学生は10名もいなかった）。

こうした問題点を解決するために、本大学で開講したのが、キャリア教育に関する必須教養科目である。３年前から、イノベーションセンターを設け、関連授業のコースデザインや授業内容を決めて、各学院の学生課の職員に授業をしてもらうことになっている。

２．イノベーションセンター

Future Center Alliance Japan（FCAJ）によると、元々イノベーションセンターというのは、各企業が自社のリソース（技術、設備、人材、情報など）を活用し、外部や顧客（市民）と共創しながらイノベーションに資する調査や開発、プロトタイピング、実験などを行う場である。また、「顧客理解を深めて新しいインサイトを見つけ、それをビジネスモデル化し、プロトタイプを作り、顧客を巻き込みながら市場テストを行っていくというリーンスタートアップ等のプロセスを実践する場[6]」である。それが、徐々に大学等にも取り入れられ、数多くのイノベーションセンターが各大学内に設立されている。

それに対して中国では、教育部の指導のもとに『中国大学イノベーション教育研究センター』を設け、『中国大学イノベーション教育連合[7]』が

[6] FCAJウェブサイトから引用。

[7] 2015年４月中国の清華大学により設立され、当初は137校の大学と50社の企業で構成された団体であったが、現在は全国500校以上に規模が拡大され、アリババをはじめ200社以上の企業で構成されている。

運営している。同研究センターの委員は各大学の専門家で構成され、関連企業や政府機関が連携して大学や研究所の中にイノベーションセンターを設立し、理論的な研究や実践能力を養成している。

同研究センターの役割は、新しい教育理念・研究成果による出版物管理と認定・イノベーションに関する授業の開発と共有などである。そこで、大学生のキャリア形成や企業と大学とのつながりを深め、社会経済発展のために最も有能な人材を育成することを目指している。

本大学のイノベーションセンターもそうした国の連携政策に応えるべく、2016年６月に設立され、大学生のイノベーション能力に関する大会への参加指導やキャリア教育に関する授業などの開発を業務内容として発展してきた。現在、イノベーションセンターによって設置されている授業は「就職指導」、「イノベーション基礎」、「職業生涯プラン」の３つである。

就職指導の授業では、受講生を対象に１回目の授業で以下のようなアンケートを行っている。

表２　大連外国語大学「就職指導」授業内容（一部分）

順番	内　容[8]	満点	点数
1	自分の職業興味についてよく知っていますか。	10	
2	自分がやりこなせる仕事はどんなものかよく知っていますか。	10	
3	自分の志望する職位・企業・業種ははっきりしていますか。	10	
4	自分の長所について考え、それが運用できるか自己分析していますか。	10	
5	企業の募集情報に関してどんなルートがあるのかよく知っていますか。	10	
6	企業の募集手順や募集条件などについてよく知っていますか。	10	
7	履歴書の作成やコツについてよく知り、履歴書は用意できていますか。	10	
8	面接の流れや面接の方法、それに対する心構えはできていますか。	10	
9	企業の筆記試験方法と主な内容はどんなものか知っていますか。	10	
10	就職活動で発生する挫折や困難、それに向かう心構えはできていますか。	10	

（出典）　大連外国語大学就職指導処提供資料（原文は中国語で、筆者が日本語に訳したものである）。

以上のような設問を通して、学生の就職活動に備えて足りない点や自己分析および面接に関する準備内容を指導するきっかけとしているが、各学生の問題点と点数分析に基づいてどれほどの指導がなされているかが、問題である。そこには、大量の時間と場合によっては個別指導が必要となるだろうが、授業の現状からみて、単なるアンケートに過ぎず、結果分析およびそれに基づいた指導までは行っていないと考えられる。

その他に開設されている「イノベーション基礎」と「職業生涯プラン」でも同様の問題点がみられる。「イノベーション基礎」は一学期に12コマ、一週間に１回２コマとなるが、その授業内容としては、イノベーションシミュレーション・ビジネスモデル像の紹介・イノベーション企画書の作成指導・イノベーション企画書の評価・大学と企業の連携基地見学・授業のまとめというものである。一部の授業評価をみると、大半の学生は単位取得のための出席になり、出席率も高くはない。

「職業生涯プラン」という授業は、一学期に32コマ、一週間に１回２コマとなっており、講義期間は基礎科目と同様である。当授業の評価方法は、学生の自己評価・クラス別の集団評価（学生同士が評価）・担当教師の指導評価に分けられている。その中で、人生プランについての学生の自己評価を見てみると、５段階評価の真ん中の「理解了（理解はしている）」というレベルに留まり、まだ具体的に自分が将来何をしたいのか、どういった人生を送りたいのか、については講義受講後も不明確なままでいる。

いずれにしても、最も根本的な問題は現場で教育を行う教員自身の社会意識・見識を向上させる必要がある点である。現在、本大学で関連授業を担当するのは、各学部の学生課の職員であり、専門知識を有する教員ではない。学生の人数が多いことや専門教員不足が背景要因としてあるが、中国での学生課の職員の専門分野はそれぞれ異なっており、キャリア教育とは相当異なる分野の場合が多い。学生課所属であるがゆえに、担当する学

[8] 実際は中国語で行い、日本語の訳は筆者が訳したものである。

生の現状については現場で教育を行っている教員より詳しい可能性はあるが、授業を行えるレベルには到達しておらず、関連資格も有していない。

また、教員がキャリア教育に関する授業で行うプログラムやカリキュラム作成は、個人の専門知識やキャリアカウンセリングのような教育内容のみならず、産業界からの協力・支援のもと共同で行う必要もある。そのためには、大学と企業との連携（産学連携）や大学教員間の交流、教職課程におけるキャリア教育や社会・産業界への理解などが求められる。

3．大連外国語大学におけるキャリア教育の問題点と課題

本大学におけるキャリア教育の問題点と課題は以下の通りである。

1）キャリア教育は、単純な就職指導や企業を招待し募集説明会やジョブフェアを開くだけでは不十分である。職業の種類や企業等の業種・規模・業務内容などの多様化を踏まえ、それに見合う社会人・職業人としての基礎能力を持ち、社会変化に対応できる専門性と創造性の高い人材を育成しなければならない。

2）キャリア教育は、担当行政部門や担当する教職員のみが行う取り組みであると認識されてはならない。全学的なキャリア教育の位置づけや、教育プログラムの整備、カリキュラムの設定、全学年にわたる基礎的なキャリア開発、および高いレベルの専門能力を有する教職員の指導が必要である。

3）キャリア教育を担当する教職員（カウンセラーや講師等）は、関連資格所有者であり、直接学生と接触があるとともに、企業の職場経験者あるいは、常に企業情報を手に入れられる立場であることが望ましい。現時点で、中国の学生課の職員[9]の採用試験は教師選抜試験とも異なり、職業技能試験とも異なる。できれば、専門知識を有するキャリア教育者を採用し、効果的な指導を行う必要性が見られる。

---

[9] 中国語では「補導員」と呼ばれるが、普段の業務内容は学生の生活管理である。

4）キャリア教育の方法としては、講義形式の授業だけではなく、授業科目の内容の実社会における適用、グループワーク、ゼミ形式の授業、職場体験やインターンシップ等を活用するとともに、教育課程内外の活動を効果的に組み合わせて実施することが大切である。

第３節　キャリア教育における学生意識調査

１．調査対象

今回は日中共同研究として、亜細亜大学アジア研究所の教員と大連外国語大学の教員が共同で大連外国語大学の大学生を対象として2018年10月に「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」と題するアンケート調査を実施した[10]。今回の調査は大連外国語大学の日本語学部・商学部・英語学部・ソフトウェア学部の４つの学部生538人（男性：99人・女性：439人）を対象に行った。そのうち、日本語学部とソフトウェア学部の学生は日本語学習経歴があり、英語学部と商学部の学生は日本語学習経歴がない。具体的な情報は以下の表３の通りである。

表３　アンケート対象学生の概要

学部名	人数	学年	人数
日本語学部	216人	一年生	180人
商学部	157人	二年生	135人
英語学部	52人	三年生	214人
ソフトウェア学部	113人	四年生	９人

（出典）「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

以上の学部ごとにいくつかのコースに分かれており、理系や文系で若干考え方などが違ってくると考えられるが、その点に関しては本研究の対象

[10] 九門（2019）、８－９ページ。

範囲としない。

2．調査内容

本調査は、全部で16問の内容を設置し、いずれも就職指導やキャリアプランなどに関する内容とした。設問意向としては、既に妥当性の検討が行われている坂柳（1996）の「職業キャリア・レディネス尺度（CRS）の質問項目」を参考にして、大学の現状と学生の価値観・関心性・自立性・計画性が確認できる16の項目を設けた（表４）。

表４　アンケート内容（一部分）

取組み	Q１	あなたの大学の職業指導（生涯）教育は何年次から始まりましたか？
	Q２	大学では何年次から職業指導（生涯）教育を始める必要があると思いますか？
	Q３	あなたが参加したことのある職業指導教育の形式は？
関心性	Q４	あなたが大学の職業指導教育で必要と考える講座や指導は何ですか？
	Q５	あなたは自分のキャリア選択にどういう要因が影響していると思いますか？
	Q６	あなたが人生において大事にしている価値観を３つ選択してください。
	Q７	自分の価値観をベースにした職業選択を考える職業指導教育の講座に参加してみたいと思いますか？
自立性	Q８	現在の大学における職業指導教育の内容についての満足度は？
	Q９	あなたが不満足の原因は何ですか？
	Q10	あなたが就職活動で苦労した点は何ですか？
	Q11	企業・職場に求める条件は何ですか？
計画性	Q12	卒業後の進路はどういう予定ですか？
	Q13	就職または起業する時の場所・国を選んだ理由は何ですか？
	Q14	勤務地（国）を選んだ理由は何ですか？
	Q15	大学院卒業後、どこで就職する予定ですか？
	Q16	大学院で留学する理由は何ですか？

（出典）「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

そのうち、５・６・11・14番の問題に関しては、学生の心理調査のため、「複数選択可」とし、影響度が高い順に並べてもらった。８番の大学のキャリア指導における満足度に関しては、①とても満足、②まあ満足、③満足、④満足ではない、⑤全く満足ではないという五段階評定法を用い、５点から１点の得点を与え、平均得点を求めた。

３．調査結果

ここでは、本大学の538名の学生を対象に行った結果について考察する。全体的な傾向としては、満足度からいえば平均して3.405ポイントという比較的高い点数であったが、大学に設けてある就職支援センターへの意見は少なくなかった。

次の表５は学生が既に本大学で受けたことのあるキャリア教育関連の授業内容あるいは活動の現状であり、表６は学生が大学のキャリアセンターに希望している内容に関する意見である。いずれも、学生の大学の現状に対する具体的な要望を聞くために、同じ内容の項目で複数選択できるように設定している。

表５から、80％以上の学生が就職指導教育課程を受けたことがあるが、国内や海外でのインターンシップ機会の提供、自己理解を深めるための講座、そして社会人や卒業生との対話と回答した学生は20％未満であった。最も少なかったのが海外でインターンシップできる機会の提供であった。本大学は外国語大学であるがゆえに、現状としては既に13種の外国語を学部として設置しているが、海外でのインターンに関する情報や機会が多くの学生に届けられていないことになる。

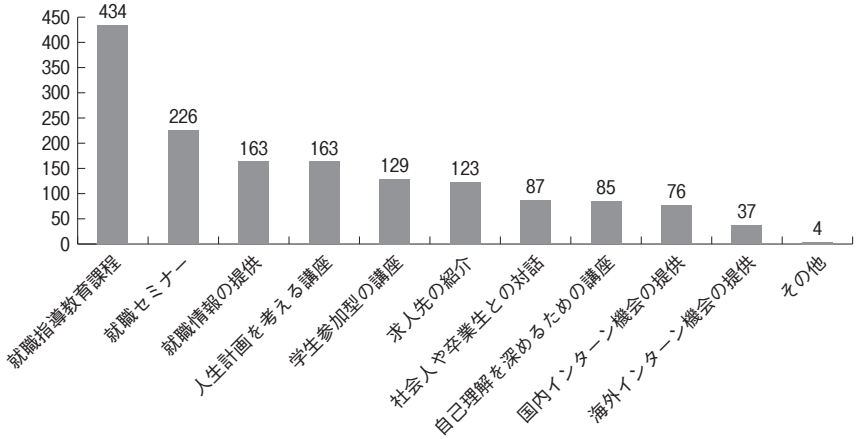
このような既に行われているキャリア教育の一方、学生が大学に希望していることは何であろうか（表６）。

回答者が最も多かったのは国内インターンシップ機会の情報提供である。その点に関しては、問12の卒業進路調査で国内就職を選んだ学生が261名（中国の出身地での就職が136名・中国の出身地以外での就職が125名）と

いうことから国内就職の前段階でインターンを経験しておきたいという意向がみえてくる。その他の項目に至っては、40％近い学生が平均的に関連情報や大学の取り組みを希望していることから、大学の就職サポートやキャリア対応への改善や希望の度合いが高いと同時に、学生自身のキャリア意識が未だに不確定、あるいは未熟であることなども考えられる。

その一方、学生の大学のキャリア教育に対する満足度が3.4ポイント以上に達したことについて、疑問も残る（Ｑ８で「満足ではない」、「全く満足ではない」を選んだ学生が97名だったにもかかわらず、Ｑ９の不満足の理由に記入した学生は274名であった）。そこで、更に不満足の理由に回答した学生の回答内容について分析してみた（表７）。最も多かったのが、就職指導教育の内容が少なく、形式が単一であることで、次に多かったのが就職指導教育を行う教師の能力や経験不足ということである。その他を選んだ17名の具体的な不満の理由をみると、「授業内容を実践できる場が少ない・実際に学生が求める知識を教えない・時間の無駄遣い・授業と関係のない広告や宣伝をする・マンツーマンの指導がない」等の内容であった。

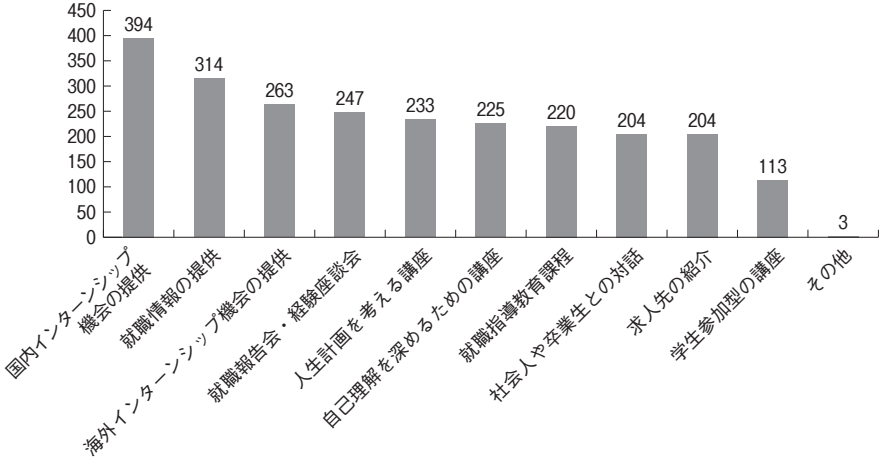
表５　参加したことがあるキャリア教育の内容（n＝538）



（出典）「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

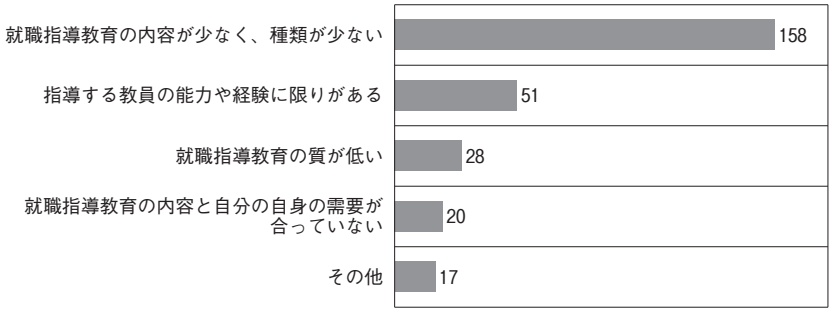
以上の学生のインターンシップ情報などへの需要、そして現在既に大学で行われている就職指導教育や現場で教える教員に対する指摘や不満からも、先に述べた本大学の現状における教職員の専門知識不足やカリキュラム設定の現実性が低い点が改めて確認できる。

表６　キャリア教育に対する学生の希望（n＝538）



（出典）「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

表７　キャリア教育に不満足の原因（n＝274）



（出典）「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

第４節　研究成果とまとめ

今回の研究では、大連外国語大学におけるキャリア教育の現状を分析し、学生の意識調査を通して改めて関連教育に存在する問題点を指摘し、学生のキャリア認識の不足や今後大学として最も取り組むべきこと、教師のスキル向上に関する必要性を取り上げた。

今回の意識調査の対象は主に１年生と３年生が多く、全体的な結果を分析したが、今後は１年生と３年生でどれくらいの差があるのか、また卒業を目の前にする４年生をも対象にアンケートを行い、より具体的な数値から学年別に対応したキャリア教育内容の実施案を考察してみたい。

日本の大学では「キャリアと教育」といった授業が開設され、すでにかなりの授業成果を上げている。山口大学の平尾先生は毎週学生に「自分と向き合える」レポートを書かせ、何百枚の学生のレポートに対してコメントを書き、率直な指導とアドバイスをしている[11]。まだ「私は何者か」という自己理解が不十分な中国の一人っ子の大学生に、まずは十分な自己分析（自分の能力や・適正・志向など）ができる能力を育成し、それから一歩前に踏み出して、社会を知ってもらい、企業への就職やキャリアと個人とをいかにつなげるか、具体的に考えさせる必要がある。

そのためには、教師の正確な指導と提案、そして、まず近い距離で学生と向き合うことが必要である。大学内において就職支援センターやキャリアセンターなどの機関あるいはイノベーションセンターのみがキャリア教育を担うのではなく、大学内の有機的な連携を図り、全教職員が関わりながら推し進めていくことが、多くの期待に応えるための対策であろう。現在中国の各大学におけるキャリア教育は、アメリカや日本に比べて相当遅れており、いまだに重要視されていない傾向がみられる。2017年より教育部による『産学合作協同育人プロジェクト』[12]の提唱で、多くの企業と大

[11] 平尾（2014）、38ページ。

[12] 日本の『産官学』に似ているプログラムで、大学と企業との連携を呼び掛けている。

学が連携し、人材育成と教育発展のために力を入れているが、その効果はまだ芳しくない。

今後の研究課題としては２つ予定している。まずは、教師意識に関する調査を行い、改善すべき問題点を取り上げ、大学の教員と社会人経験者の教員との交流を深めるとともに、教職課程においてキャリア教育や社会・産業界への理解促進を深めることである。次は、中国国内における国立外国語大学６校を中心に、日本語を学習している学生の意識を日中共同で調査し、そこから両国経済や文化交流のために貢献できる人材育成やそれに伴うキャリア教育の今後進むべき方向を探っていきたい。

参考文献

Hall, D.T.（1976）“Careers in Organizations”, Foresman and Company.

赤坂武道（2013）「キャリア教育の現状と課題」『北海学園大学大学院経営学研究科研究論集』第11号、１－４ページ。

五十嵐敦（2016）「大学におけるキャリア教育のとらえ方に関する研究―福島大学での教員意識調査の結果から―」『福島大学総合教育研究センター紀要』第21号、31-38ページ。

九門大士（2019）「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査―大連外国語大学との日中共同研究結果より―」『アジア研究所所報』第174号、８－９ページ。

中央教育審議会（2011）『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』（答申）

中国教育部（1998）『二十一世に向けた職業教育改革の原則に関する意見』公式ウェブサイト。

中国教育部（2018）『高等職業教育創造発展行動計画（2015-2018年）公式ウェブサイト。

中国国務院（2015）『職業教育改革を更に進化し、全面的に人材育成品質を高めることに関する若干意見』公式ウェブサイト。

花田光世・宮地夕起子・森谷一経・小山健太（2011）『高等教育機関におけるキャリア教育の諸問題』慶応義塾大学　KEIO SFC JOURNAL Vol. 11、No. 2、73-85ページ。

平尾元彦（2014）「山口大学におけるキャリア学習の取り組み」、『大学教育』⑾、36-42ページ。

望月由起（2011）『大学等における就職支援・キャリア支援の現状―学校種や設置者による相違に着目して―』独立行政法人日本学生支援機構『学生支援の現代的展開―平成22年度学生支援取組状況調査より―』。

森山廣美（2007）「大学におけるキャリア教育の検証」（序章）『四天王寺国際仏教大学紀要』第45号、579-590ページ。

FCAJ　大学イノベーションセンターホームページ参照
（http://www.futurecenteralliance-japan.org/innovation/innovationcenter）